

資格取得の意義と実践報告

－最近5年間における本校の実践と今後の課題－

岩手県立福岡工業高等学校 電気情報システム科 指導教諭 鳥居 郁夫

1. はじめに

福岡工業高校は昭和39年に、機械科2クラス、電気科2クラス、電子科1クラスで開校したが、現在は、機械システム科1クラス、電気情報システム科1クラスに改編され、平成29年には創立53年を迎えた全校生徒189名の小規模校である。卒業生の多くは、県北地域はもとより、岩手県内、県外で工業技術者として活躍している。

平成29年度における卒業予定者59名の進路状況は、就職内定者53名（内定率96%）、進学合格者3名（合格率75%）であった。主な就職先について、機械系では鉄鋼生産工場、自動車やトラックの生産工場、機械部品製造工場など、電気系では電力会社、電気工事会社、ビルメンテナンス会社、鉄道会社、保安協会などである。

在校生や保護者、そして卒業生を採用している県内外の企業関係者は本校の人材育成について何を期待しているのか、「福岡工業高校としての目指すべき方向性」を改めて考えてみたい。

本校の学校案内には、「明るく生き生きと、活力に満ちた美しい学校、生徒一人ひとりの個性や能力と適性を伸ばし、生涯を通じて社会の変化に対応できる柔軟な思考力と逞しい実践力を持った技術者の育成を目的に教育を推進します」と書かれてある。

このような技術者を育成する要素を満たす役割の1つに、国家資格の取得という方法が考えられる。そこで、工業分野と関連が深い資格を

取得させることで、生徒のやる気と活力を生み出し、学校全体が活性化する方法とは何か、最良の方策を試みながら実践に取り組んできたことを以下に紹介する。

1) 在学中に資格を取る意義や目的は何か

将来なりたい職業を見据えて関係の深い資格に挑戦し、目標に対して努力する姿勢を育てる。

2) 進路決定に果たす資格の役割とは何か

授業や部活動と共に、余った時間を有効に活用し、自己啓発や更なる成長を身に付ける。

3) 3年間で、どんな資格を取得すべきか

国家資格だから検定試験だから何でも受験するのではなく、将来就きたい仕事に関係する資格を効率的かつ優先的に受験するよう心掛ける。



廊下に張り出した資格取得状況

- ① 機械システム科 【◎は必須 ○希望】
 - ◎危険物取扱者・◎アーク溶接
 - 機械保全・普通旋盤・第2種電気工事士
- ② 電気情報システム科 【◎は必須 ○希望】
 - ◎第2種電気工事士・○第1種電気工事士
 - 乙種4類危険物取扱者

だ基礎知識や専門知識を十分に生かせる技術者の卵として企業に就職し、日本のものづくり産業界をリードする人材に育ててほしいと願っている。

私自身も、日々生徒と共に指導に励む中、次の点を特に強調して指導している。

- ① 何のために資格を取るのか、また取得した資格を将来どのように活用するのか考えさせる。
- ② 合格という目標を立て、努力を続けて試験に臨めば学校の成績や順位に関係なく、国家試験に合格できることを実証させる。
- ③ 資格取得は合格することだけが全てではなく、合格という目標に向けて努力を続ける姿勢や行為が自己の成長に繋がることを教える。
- ④ 国家資格は全国共通の合格ラインに達した者に与えられるものであり、地域や学校規模などに関係なく、高校生にとっては平等に競い合えるものである。

3. 在学中における学校行事と関連した計画的な資格取得の流れ

キャリア教育計画表は、年度当初に全校生徒へ配布し、部活動や進路活動と並行しながら計画的に資格取得ができるように作成したものである。内容は、学校の教育方針や学年毎の学校行事と資格試験の日程、受験料、進路活動の日程などを1枚の用紙に集約し、自分に合った目標を3年計画で考えられるように配慮した。

- 1) 本校が取り組んでいる主な資格の合格率

※合格者数は平成30年1月末現在の数値

- ① 第1種電気工事士 10 / 24(合格率42%)
- ② 第2種電気工事士 30 / 43(合格率70%)
- ③ 2級電工施工管理技術 5 / 8(合格率63%)
- ④ 乙1～4危険物取扱者 25 / 45(合格率56%)
- ⑤ 工事担任者DD3種 3 / 5(合格率60%)
- ⑥ 機械製図検定 28 / 35(合格率80%)

- 2) 外部への情報発信

次の表はクラス別の取得状況で、年度末に各

クラス毎に取り組んだ成果を、PTA会報や進路指導資料を通じて報告している。

◆平成29年度 クラス別資格等の取得状況

区 分	H28年度 福岡工業高校の資格取得状況一覧						H30.1.31 現在 計
	資格	1年		2年		3年	
		機械システム科	電気情報システム科	機械システム科	電気情報システム科	機械システム科	
在籍数(人)	27	28	38	35	35	24	187
3級技能士(旋盤)					4		4
3級技能士(機械保全)					7		7
3級技能士(電子機器組立)				2		2	4
2級電気工事施工管理技術検定						5	5
第一種電気工事士				9	7		16
第二種電気工事士			4	23	9	19	55
工事担任者DD3種						3	3
乙種第4類危険物取扱者		1	3	6	9	6	25
丙種危険物取扱者		25	20		29	4	90
国家資格合格者延人数	12	26	27	40	58	46	209
機械製図検定					28		28
計算技術検定3級	27	28	34	33	35	23	180
情報技術検定3級			25	24	35	24	108
日本語能力検定3級			1	5	1	2	9
リスニング英語検定1級			1	6	1	1	9
リスニング英語検定2級			13	10	7	6	36
リスニング英語検定3級			11	14	8	9	42
各種検定合格者延人数	27	28	85	92	115	65	412
合格者延人数	39	54	112	132	173	111	621
生徒特別表彰						1	1
デュアル(3年)ゴールド認定				1	2	6	9
デュアル(3年)シルバー認定				6	5	3	14
デュアル(3年)顕彰認定者計				7	7	10	24

- 3) 平成29年度ジュニアマイスター顕彰制度
 - ① 特別表彰1名
 - ② ゴールド認定9名
 - ③ シルバー認定14名 計24名が認定された。

4. 機械システム科と電気情報システム科の生徒に電気工事士を受験させる理由

- 1) 就職希望者にとって企業からの評価が高い
- 2) 工具と材料を揃えれば技能試験対策が容易

5. 講習会の対策と実践

- 1) 筆記試験対策

春期講習会や平日の放課後講習会を開催して積極的に指導を行った。

- 2) 技能試験対策

筆記合格発表日から技能試験日まで、平日の

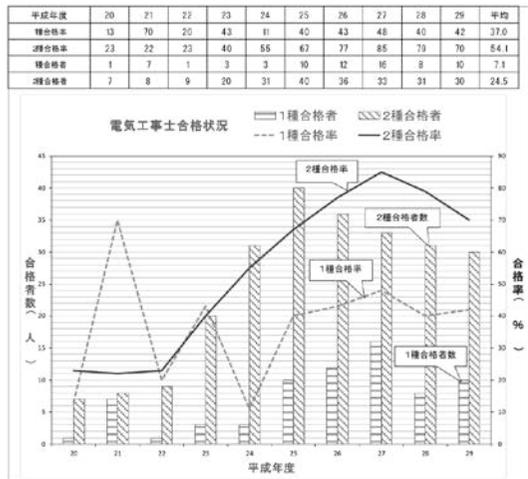


実技講習会の受講生たち

放課後2時間程度を指導した。進路指導にも直結する資格であることから、部活動の顧問にも理解と協力を得た。

3) 過去10年間の合格状況

国家試験である電気工事士1種と2種における合格状況(H20～29)をグラフに表してみた。



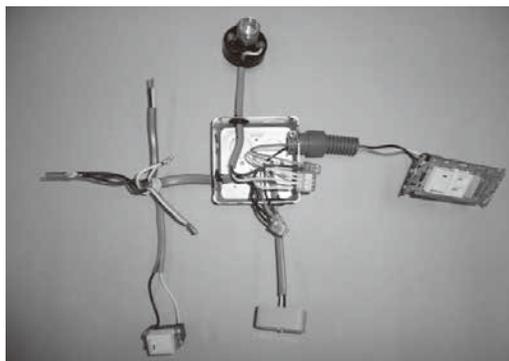
電気工事士の合格状況

合格者数は在籍生徒の減少に伴って減っているが、合格率は全国平均並を維持している。

4) 小さな欠陥も厳しくチェック

市販テキストの標準的な完成写真を見せて作らせると、小さな欠陥を見逃してしまう。

平成29年度から欠陥の種別がA～Cではなく全て欠陥扱いとなり、小さなミスも許されない厳しい基準となった。その為、あえて欠陥だらけの見本を作り、生徒に有りがちな誤った電



あえて欠陥だらけの課題を作って見せた

線の接続方法や器具の取付方法を、実物の間違い作品を見せて解説することにより、生徒自身に何が欠陥になるのか良否を判断させ、より理解を深めさせる対策を取っている。

6. 今後の課題

- ① 講習会に参加する生徒の意識が低く、自宅学習への取組に甘さが見られる。
- ② 運動部在籍の生徒が多いため、部活動の練習時間と資格講習会の時間が重なることが多く、受験者全員が揃わない。
- ③ 3年生の進路活動に効果的に結び付くという理解が浸透しない。
- ④ 受験会場が盛岡市や仙台市と遠方のため交通費の負担が大きい。ただし、平成30年度から、主な資格試験は県内の盛岡市で受験できることになった。

7. まとめ

年度初めに全校生徒を対象に計画表を配布し、3年間で段階的に資格を取得させる方策が、少しずつではあるが着実に浸透してきた。特に3年生は、進路決定という最大の目標に向けて、取得した資格を履歴書に記入し、高校生活における部活動と資格取得を両立してきた実績を努力成果として、就職や進学試験の面接時に、自信を持って自己アピールに活用している。

今後は、生徒たちがそれぞれの進路目標を確実に実現できるよう教員が一丸となって、更なる実践を継続していきたいと考えている。このように、学科の枠を超えた取組が、生徒たちのやる気と活力を生み出す原動力になることを願っている。

最後に、これまで実践してきた事例を発表する機会をいただき、本当にありがとうございました。今回の実践発表が、各高校で資格指導を担当されている先生方にとって、少しでも参考にして頂ければ幸いです。

※平成29年度の資格合格結果については未発表のものが有り、全ては掲載しておりません。